

ココデ!

ココ、熊本で、地域の医療を支える。

ココデ

2026
Spring
vol
09

ココ、熊本で、地域の医療を支える。

CocODE! ココデ

2026 Spring vol.9

Top Interview

水俣・芦北エリアと、
わたしが交わした
3つのミッション

国保水俣市立総合医療センター

診療部長 宮崎 信 先生

写真/「エコパーク水俣」から不知火海をのぞむ

ご自由にお持ち帰りください

熊本県地域医療支援機構 広報誌

たいせつなふるさとして、
たいせつなひとを診る。



熊本県地域医療支援機構
熊本大学病院 地域医療支援センター内
熊本市中央区本荘1-1-1
TEL:096-373-5627
<http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/>



写真/和田岬公園からのぞむ不知火海の夕日



Our mission

広域の医療ニーズに対応し
地域の安心と発展に寄与したい

ICTで支える
地域医療の未来

国保水俣市立総合医療センターは、産婦人科や小児科を含む19の診療科を備え、24時間体制の救急医療を提供する地域の中核病院です。芦北医療圏に加え、鹿児島県北部からの県境を越えた受診にも対応しています。こうした広域的な医療ニーズに応えるため、ICTを活用したオンライン診療や遠隔医療、医療者向けコミュニケーションツールの開発にも積極的に取り組み、地域医療の質の向上を目指しています。

当センターは、地域医療を支えるだけでなく、研修医や医学生にとって、医療を深く学べる環境です。プライマリケアからエピソードまでのお看取りまで、医療の流れを総合的に経験でき、福祉・医療・行政が連携する現場に身を置くことができます。これまでも多くの若手医師がここで研鑽を積み、各地で活躍しています。

医療は地域を支える重要なインフラです。私たちはこれからも質の高い医療を提供し、地域の安心と発展に貢献してまいります。

国保水俣市立総合医療センター 院長

阿部 道雄 先生

1991年熊本大学医学部卒業後、済生会熊本病院、小国公立病院などを経て、2007年から国保水俣市立総合医療センターに赴任。2019年、同センター院長に就任



Greeting

広域の医療ニーズに対応し
地域の安心と発展に寄与したい

02

国保水俣市立総合医療センター 院長 阿部 道雄 先生

特集1

03

水俣・芦北エリアと、わたしが交わした3つのミッション

国保水俣市立総合医療センター 診療部長 宮崎 信 先生

特集2

Think globally, Act locally

07

水俣・芦北のDOCTOR—C
地域に根ざす代謝内科医に研修医が直撃

国保水俣市立総合医療センター 診療部長 古川 昇 先生

09

がんばる先生のがんばらない時間

国保水俣市立総合医療センター 中西 浩一朗先生、工藤 真励奈先生、寺崎 萌先生、村本 健翔先生

11

患者さまの声
中村 ヨシコさん

13

総合診療医のリアルを直撃「教えて先輩！」
若手総合診療医×医学部生との座談会
熊本大学病院 総合診療科 下地 徹 先生

15

熊本県医師修学資金貸与制度による地域勤務の義務を終える医師に聞く！
阿蘇医療センター 腎臓内科 濱口 亜実 先生

17

女性医師の多様なキャリアパスについて考える
人吉保健所 木村 聡子 先生

19

医学部Freshmanに聞く「知のライフスタイル」

20

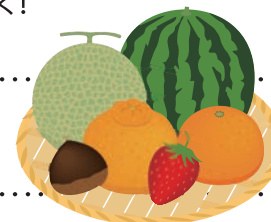
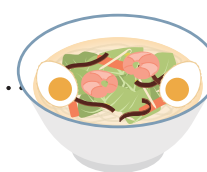
地域の診療室
熊本大学病院 総合診療科 高柳 宏史 先生

21

熊本県へき地医療支援機構の取り組み

22

熊本県地域医療支援機構の取り組み
水俣芦北での夏季地域医療特別実習を実施！



COCODEは、
熊本県内で活躍する
医師の姿などを通じて、
医師を志す学生や
地域の皆さんに
地域医療の魅力を伝える
マガジンです。

COCODEバックナンバー



バックナンバーはこちらで
見ることができます！



熊本県地域医療支援機構
https://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/about/_cocode.php

水俣・芦北エリアと、 わたしが交わした 3つのミッション



ICTの力で広域救急医療を支える宮崎先生



休日は水俣の豊かな自然の中で、釣りやキャンピングカーでの家族旅行を楽しんでいる

宮崎 信先生が誓った

3 Missions

- Mission 1** 県境を越えた医療連携を
- Mission 2** 地域における医療人の育成
- Mission 3** 地域住民の方に信頼される医療機関へ

地域医療は、まちの暮らしや
未来を支える、土台そのもの、

水俣市にある不知火海を見下ろす高台に、宮崎信先生は時折足を運びます。眼下に広がるまちや海を眺めていると、この地を守りたいという思いが湧きあがってくると語ります。

熊本大学を卒業後、天草地域医療センターなど地域の病院に赴任。日々の診療を通じて「地域医療は、まちの暮らしや未来を支える、土台そのもの」と感じるようになったと話します。「高齢者は複数の症状を抱えることが多く、他科との連携が診断や治療の迅速化につながります。地域の病院では、こうした連携がとりやすく、患者さん一人ひとりに対して幅広い視点で診療を行うことができ、医療者としての視野が広がりました」。

国保水俣市立総合医療センター
診療部長

宮崎 信 先生

天草郡苓北町出身。整形外科医、産業医。1999年に熊本大学医学部卒業。熊本大学病院、菊水町立病院（現：和水町立病院）、天草地域医療センター、水俣市立湯の児病院を経て、2004年から国保水俣市立総合医療センター勤務

海とまちを見渡す高台で、地域への思いを強くする宮崎先生



「この地に骨をうずめる覚悟で」

県境を越えて、地域に根ざす医療を

教育・交流・ICTで、

地域医療に新しい風を

2004年に国保水俣市立総合医療センターに赴任。このエリアは芦北医療圏にとどまらず、鹿児島県北薩地域からも患者が訪れるため、広域にわたる対応が求められます。

こうした状況を背景に、同医療センターでは救急・ICU連携や医療ネットワークの構築を進めてきました。宮崎先生は「医療に県境はない。この場所からこそ果たすべき役割がある」と話し、救急搬送時の情報共有などを通じて、迅速な対応と救命率の向上を目指しています。

「事故の状況を事前に把握できれば、救急車が病院に到着する前に脳神経外科や外科の医師が集まり、すぐに対応できる体制を整えられます」と宮崎先生。

また地域における医療人材の育成も重要なテーマ。2024年3月から、水俣市・水俣高校・熊本保健科学大学・同医療センターの4者連携を開始し、医療人材の育成に取り組んでいます。「水俣高校に病院の職員が出向き、医療の仕事や現場の様子を紹介することで、生徒の関心を高めています。また、水俣高

校から熊本保健科学大学に進学した看護科の学生で、卒業後当医療センターで勤務する意志のある学生には奨学金を提供し、将来の地域医療を担う人材として育てています」。

地域との信頼関係を深めるため、「院長と語ろう」などの交流イベントも開催。今年からは「病院フェス」をあらたに開始し「子どもたちが医療機器に触れたり、レントゲンの仕組みを学んだりするなどの体験を通じて、医療を身近に感じてもらえるとうれしいですね」。

1から10まで診る医療で、
まちの暮らしに寄り添う

整形外科医として日々の診療に取り組む宮崎先生。芦北医療圏は熊本県が定める二次医療圏のひとつですが、周辺に整形外科の開業医が少ないため、同医療センターは一次医療の役割も担っています。

「一般整形外科疾患をしっかりと診た上で、二次医療としての専門的な治療を行っています。高度な手術が必要な場合は、高次医療機関と連携し、適切な診断と紹介を行っています」。

また、介護保険の主治医意見書の作成や、地域の医療・福祉機

関と連携しながら退院後の生活につなげる取り組みも。「ここは、1から10まで診る病院です。診断から手術、リハビリ、在宅支援まで貫いた医療を提供することで、地域に根ざした医療を目指したい」。

今後は地域の開業医と連携しながら、骨粗鬆症の治療や骨折予防に関するネットワーク構築にも取り組むたいと話す宮崎先生。「この地に骨をうずめる覚悟ができました」と語るそのまなざしには、地域への強い思いと揺るがない決意が感じられました。

地域に根ざす代謝内科医に 研修医が直撃！

Think globally, Act locally!

高齢者が多い水俣・芦北エリアでは、糖尿病や高血圧などの生活習慣病が広く見られます。代謝内科医である古川昇先生は「来るもの拒まず、去る者追うよ」をモットーに、地域医療に取り組んでいます。水俣での診療を通して感じることを、研修医に語ってくださいました。

開かれた医局で学ぶ 地域医療の実践と協働

古川：代謝内科に所属し、糖尿病や内分泌疾患などの生活習慣病の診療をしています。代謝内科を選んだのは、分子生物学的な研究に興味があり、基礎研究ができる領域だったこと、そして糖尿病患者が急増していたことが理由です。当医療センターに赴任する前は大学病院で診療を行いながら医学部で学生のマネジメントを担当し、医学教育にも関わってきました。

松藤：水俣への赴任は希望されたのですか？

古川：大学で学生を指導していたとき、「地域医療は大切

だよ」とよく話していました。キャリアを重ねる中で、地域に貢献したいという思いが強くなっていったタイミングで、当センターへの赴任の辞令が出ました。

吉永：どのようなところにやりがいを感じていますか？

古川：当センターには水俣・芦北地域だけでなく、鹿児島県北部からも多くの生活習慣病の患者さんが受診されます。特に高齢者が多く、そうした方々の健康を支えることにやりがいを感じています。

松藤：研修医の僕たちにとっても、この病院での学びは大きいのです。

古川：当センターは、幅広い症例を診ることができるので、若手医師にとっては実践的な学び

が得られますよね。「どこまで診て、どこでつなぐか」という判断も学べます。

吉永：大学病院と比べると、診療科間の垣根が低いと感じます。

古川：そうですね。当センターの医局は大部屋で、診療科ごとの仕切りがありません。困ったときには他科の先生にすぐに相談できるので、スピーディーに対応できます。研修医にとってはとても心強い環境だと思います。

〓追いかけて支える〓 患者さんの未来

吉永：古川先生は大学病院からここに赴任されて診療スタイルは変わりましたか？

古川：基本的なアプローチは

変わっていませんね。『Dr.コトー診療所』のような離島医療なら違った課題が見えてくるかもしれませんが…。

松藤：地方でも最新の医療を提供することは可能でしょうか？

古川：代謝内科ではインスリンポンプ治療や肥満症への薬物療法など、最新の医療を提供しています。また、当センターは熊本大学病院との連携も強く、外科ではDX技術を用いた当センターと熊本大学病院消化器外科との共同診療も活発に行っています。

松藤：先生が代謝内科医として心がけていることを教えてください。

古川：糖尿病は、失明や脳梗塞、心筋梗塞などのリスクにつながる病気です。そうならないように、患者さんには定期的に医療機関を受診してもらうことが何より大切だと思っています。目指しているのは、合併症を起こさずに寿命を全うしていただくこと。そのためには「来るものは拒まず、去るものは追うよ」という姿勢で、患者さんに寄り添いたいと思っています。

松藤・吉永：「来るものは拒まず、去るものは追うよ」って



名言ですね(笑)。

診療科選びのポイント 自分の特性の見極めと やりがいを感じられる かどうか

松藤：診療科選びに迷っています。正直、どの科も魅力的で決められません。

古川：私は初期研修がない時代に卒業したのですが、今振り返ると、じっくり考えて行動する自分の性格に代謝内科は合っていたなと思います。自分の特性を見つめること、そしてやりがいを感じられるかどうかを選ぶ上で大切ではないでしょうか。

松藤：アドバイス、ありがとう



臨床研修医

松藤 哲先生

国保水俣市立総合医療センター 診療部長

古川 昇先生

臨床研修医

吉永 周司先生

ある日の松藤先生の
タイムスケジュール

7:20	起床
8:30	外来
12:00	昼食
13:00	病棟業務
17:00	終業後レポート作成
18:00	湯の鶴温泉や 出水市の温浴施設へ
20:00	食事、YouTube などでのリラックス
23:30	就寝



ある日の古川先生の
タイムスケジュール

6:30	起床、朝食
8:00	病棟回診・データチェック
8:30	外来
12:30	昼食
13:30	外来
15:00	病棟回診・会議など
17:00	帰宅
18:00	夕食後リラックス
23:00	入浴後就寝

ある日の吉永先生の
タイムスケジュール

6:30	起床、朝食
8:15	引継ぎ後、救急外来研修
12:00	昼食(日によってバラバラ)
13:00	救急外来研修
17:00	終業
18:30	卓球(病院の部活動)
20:00	夕食後入浴
22:00	就寝





出来る先生は
プライベートも
充実!!

がんばる先生のがんばらない時間



KOICHIRO NAKANISHI

国保水俣市立総合医療センター

中西 浩一郎先生（整形外科）

サッカーと模型づくりを楽しんでいます

昨年11月に院内でサッカー部を立ち上げ、月に1度、エコパーク水俣や出水市のグラウンドで練習をしています。先日は芦北町で開催されたビーチサッカーフェスティバルに出場し、優勝しました。サッカーに加えて、飛行機の模型作りにも夢中!ものづくりに没頭する時間が気分転換になっています。



MAREINA KUDO

国保水俣市立総合医療センター

工藤 真励奈先生（脳神経外科）

登山でリフレッシュしています

登山を楽しんでいます。水俣市と鹿児島県出水市にまたがる矢筈岳（やはずだけ）や霧島連山の最高峰・韓国岳（からくにだけ）などに登っています。自然の中を歩いたあと、山頂で仲間と食事をしたりコーヒーを飲んだりすることでリフレッシュ!「また仕事を頑張ろう」という気持ちになれますね。



国保水俣市立総合医療センター

村本 健翔先生（小児科）

水俣も、世界の海も、ダイビング!

休日はダイビングを楽しんでいます。水俣の海には、タツノオトシゴの一種「ヒメタツ」が生息しており、春から夏の深夜にはオスの育児嚢から稚魚が生まれる「ハッチアウト」が観察できます。東南アジアやハワイにも潜りに出かけ、フィリピンではカクレクマノミとの出会いを写真に残しました。



KENSYO MURAMOTO



国保水俣市立総合医療センター

寺崎 萌先生（皮膚科）

温泉と水平線に沈む夕日に癒されています

水俣・芦北エリアには、山や海を望む湯の鶴温泉や湯の児温泉があり、温泉巡りを楽しんでいます。先日はリニューアルした「つなぎ温泉 四季彩」に行ってきました。お気に入りの夕日スポットは和田岬公園です。ぼんやりと夕日を眺めていると気持ちが穏やかになります。



MOE TERAZAKI



<患者さまの声>
中村 ヨシコさん

見守る医療が、安心をつくる。

「坂本先生が診てくれるけん、心配せんで毎日過ごせます」

水俣市中心部から車で25分ほどの山あいにある久木野地区。水俣川の源流のひとつ、寒川水源の水が潤す棚田の近くに、国保水俣市立総合医療センター附属久木野診療所があります。102歳の中村ヨシコさんは、ここで月に一度、坂本不出夫先生の診療を受けています。



ユーモアあふれる人気者。中村ヨシコさん



坂本先生の手は 「魔法の手」

心臓などに持病があるヨシコさんは、診療所での診察に加え、ペースメーカーは医療センターの24時間体制で管理されており、安心して日々を過ごしています。

この日の診察では、血圧や脈拍、酸素飽和度などを測定。坂本先生が「あなたの血が動いとるよ。上は118、下は68」と伝えると、ヨシコさんは静かにうなずき「今日も、ぴしゃりですなあ」



「あなたは“水俣の宝物”」と声をかける主治医の坂本不出夫先生

と一言。周囲には笑い声が広がります。

「坂本先生は、なんでも相談できる人。指が痛くて相談したら、さすってくれて、不思議と痛みが消えました。まるで、魔法の手です」と笑顔で話します。

テレビでのスポーツ観戦が趣味のヨシコさん。坂本先生から「ドジャースは優勝したねえ。大相撲も始まるけん楽しみね」と声をかけられると、につこり笑顔です。

最愛の夫と

暮らした日々

「苦労も宝物」

ヨシコさんは、4人の息子に恵まれ、夫の栄蔵さんとともに林業や農業、炭焼きなどで生計を立てました。「1から10まで苦労したけど、おかげで何でもできるようになったんですよ。苦労も宝物です」と笑顔で語ります。

「どこに行くにも」緒だったという最愛の栄蔵さんは、23年前にパーキンソン病に伴う合併症で亡くなりました。「その時も坂本先生にお世話になりました。感謝してもきれんとですよ」と話します。

息子たちとの

語らいが

何よりの楽しみ

現在は自宅で暮らしながら、デイサービスに通う日々を送るヨシコさん。「友達は

いっぱい。この前も地域の友人たちが100歳のお祝いをしてくれました」と笑顔をみせます。

訪ねてくる息子たちとの会話が何よりの楽しみで、「こんなに長生きするとは思わなかった。みんながよくしてくれるからありがたいです」と支えてくれる人への感謝の思いを口にします。



総合診療医のリアルを直撃 「教えて先輩！」

日々、学びを深める医学生が抱える疑問や不安を、実際に総合診療医として活躍している若手医師に直撃する人気企画！今回は熊本大学病院総合診療科の下地徹先生に、学生二人が総合診療医の魅力などについて聞きました。

総合診療医のやりがいとは

福田：総合診療医を目指しています。やりがいとはどのようなところにありますか。

下地先生：患者さんやご家族を支えることが、地域の安心につながっている。そのことを実感できるのが、総合診療医のやりがいです。身体症状だけでなく、心理的・社会的な背景、生活環境まで含めて理解し、治療方針を立てていくためには医学的知識だけでなく、高いコミュニケーション力が必要です。また、ケアマネージャーや訪問看護師など多職種と連携し、地域全体で患者さんを支える役割も担います。地域や病院の規模によって求められる対応は異なりますが、どの現場にも新しい経験があり、それ自体が、学び多き研修の場となり、地域に根ざして働くことで自分自身の人間的成長につながっていると感じます。

ていると実感できます。

増永：総合診療医の難しさってどのようなのですか。

下地先生：正解のない場面が多いところです。たとえば、ご本人は入院を望まず、ご家族は入院を希望しているような場合、増永さんなどのような判断をなさいますか？

増永：ご本人の意思を尊重した方がいいのかなと思います。

下地先生：本人の意思を尊重して自宅や施設など、病院以外の場所で治療を続ける場合、病状の変化にどう対応するかは予測が難しいものです。だからこそ、本人や家族とあらかじめ話し合い、方針を共有しておくことが大切だと感じています。また、入院もひとつの選択肢ですので、その場合は医療・介護・福祉関係者など意見すり合わせて、最善の道を探っていく必要があります。そのためにも、多職種をつなぐハブ

福田：総合診療科でも外科的な処置は行いますか。

下地先生：はい。先日河浦病院で当直を手伝った際、COPDで肺がん術後の患者さんが呼吸困難を訴えて来院されました。CTを撮ると、癒着を伴う大きな気胸が見つかりました。そこで安全な穿刺部位を確認し胸腔穿刺を行いました。このように、初期研修で習得した基本的な処置技術は、実際の現場で確かな力になります。

増永：産休や育休を取りたい場合、サポート体制はあるのでしょうか。

下地先生：自治医大出身の医師の方は、卒業生同士のサポート体制があり、産休・育休中の代診医の派遣などの仕組みがあるようです。地域枠出身の医師の方は、一般の勤務医の方と同様に、所属する病院や医局が代診医の派遣などの対応をいただけていると思いますし、その他にも様々な支援制度があると思いますので、勤務先の人事担当などに早めに相談されるとスムーズに対応していただけたらと思います。

国試の勉強のモチベーションってどのように保てましたか？

増永：国試の勉強のモチベーションってどのように保てましたか。

下地先生：「人と違うことほしくない」と決めて、みんなが解ける問題を確実に取れることを意識していました。

福田：国試に合格するまでの勉強と、研修医になってからの勉強は、どちらも頑張るべきだと思います。でも、より力を入れて頑張るべきなのは、やはり研修医の期間なのではないでしょうか。

病院での1日のスケジュールを教えてください

福田：初期研修先としてどのような病院がおすすですか。

下地先生：国試に合格しなければ何も始まりません。しっかりと勉強してのぞんでほしいと思います。研修医になってからの学びは、患者さんの命や生活に直結します。手技や処方ひとつにも責任が伴い、事前の理解や慎重な判断が欠かせません。というわけで、どちらも頑張ってください(笑)。

福田：貴重なお話をありがとうございました。実際に総合診療科の専門医の先生の話を聞くのははじめてでしたので、勉強になりました。

増永：地域に出て医療に貢献することが、自分自身の研鑽につながるという話に感動しました。

下地先生：総合診療医は、実際に仕事を見ていただかないと、その魅力や役割はなかなか伝わりづらいかもしれません。が、とてもやりがいがあります。もちろん、先生方が将来どの診療科を選んでも、お互いに連携しながら患者さんを支え合える関係になれたらうれしいです。



<Information>

熊本大学病院 総合診療科のHPやSNSでは、勉強会やイベントなどの情報を発信しています！

HP

facebook

instagram

総合診療科でも外科的な処置は行いますか？



熊本県医師修学資金貸与制度による地域勤務の義務を終える医師に聞く！

「人に寄り添う医療をめざし、歩み続ける」

阿蘇医療センター 腎臓内科 医師 濱口 亜実

濱口亜実先生は、熊本大学医学部医学科の地域枠学生として、熊本県から修学資金の貸与を受け、医師としての道を歩んでこられました。地域枠制度では、貸与を受けた期間の1.5倍の期間、熊本県が指定する医師不足地域で働くことが義務づけられています。このたび、この3月に9年間の勤務期間を終えられることになり、今後も熊本県の地域医療に貢献していくことを決意された濱口先生。これまでの経験や日々の暮らし、地域枠を目指す学生へのメッセージなどについて、お話をうかがいました。



地域に根ざし、医師として、人として、成長できました。

9年間、地域医療に取り組んでこられた感想をお聞かせください。

私の時は、地域枠制度が始まって2年目で前例がなかったため、最初は不安でした。なのでほんととしているというのが正直な感想です。

この9年間の間でどのような学びがありましたか。

患者さんの背景に寄り添いながら地域医療を実践できたことは、私にとって大きな財産です。また多種と連携し、チームで支える医療の在り方を学べたことも、貴重な経験でした。

地域医療ならではのやりがいや喜びを感じた場面はありますか。

2024年からの新しい試みで、阿蘇医療センターで腎臓病・糖尿病教室を開催しており、毎回20〜30人ほどの患者さんに参加していただいています。たくさんのお話することができ、地域住民の健康維持に貢献できることにとてもやりがいを感じます。

先生はさまざまな病院に勤務されていますが、地域ごとに違う課題がありましたか。

ありますね。たとえば阿蘇では、高菜漬けなど塩分の多い食文化が根づいていて、食生活の影響を強く感じました。実際に地域に入っ

この9年間で医師としての考え方や向き合い方に、変化はありましたか。

最初の頃は、自分が正しいと思うことを患者さんに伝えるのがベストだと思っていました。でも診療を重ねる中で、その人なりの生き方や背景があることに気づかせられ、患者さんやご家族がどうしたいのかを丁寧に聞いて、それに応じた治療を考えることが大切だと思えるようになりました。今でも「この判断が本当に正しかったのか」と悩むことはあります。でも、正解が一つではないからこそ、目の前の人と一緒に考えていくことが大切なんだと感じています。

忙しい日々の中で、どのようにリフレッシュされていますか。

家族で旅行に出かけることが一番のリフレッシュになっています。また通勤時間が車で1時間ほどあるので、その時間にオーディブルで本を聴いています。

時短勤務をされているそうですが、子育てとキャリアの両立は簡単ではないと思います。ご自身の経験から

感じていることを教えてください。

3歳の息子がいるんですけど、家族の協力があってこそ、なんとかやってこれてると思います。専門医の取得に関しては、内科専門医はまだ子どもがいない時期に取りましたが、透析専門医を取ったのは、子どもが生まれて3カ月の頃。膝の上に子どもを乗せて勉強してましたね。去年取得した腎臓専門医の時は、朝30分早く起きて勉強するようにしていました。地域枠や子育てなど、さまざまな事情はありますが、自分の思いを大切に一步一步踏み出すことが大事だと思います。

医師として成長を感じた瞬間は。

阿蘇医療センターでは腎臓内科医として初めて1人で現場を任せられており、少しは成長できているかなと感じています。また、子供が産まれて時短勤務になったことで、毎朝一日の計画をしっかり立てるようにして、限られた時間の中できっちり仕事を終えることができるよう意識しており、周りの方に支えてもらいながら奮闘しています。

地域枠制度についての感想、要望はありますか。

地域医療の現場でしか得られない視点や経験を、早い段階で積めることが、この制度の大きな魅力だと思います。現在は前例も増えてきているので、地域枠の後輩たちが先輩たち

の経験談を気軽に聞けるような交流の場があると、不安の解消につながるのではないかと思います。

地域貢献を志す医師へのメッセージをお願いします。

地域の現場で過ごした日々は、私にとってかけがえのない学びの連続でした。医師としても人としても成長できたこの経験を、ぜひ若い先生方にも味わってほしいと思います。

今後の夢を教えてください。

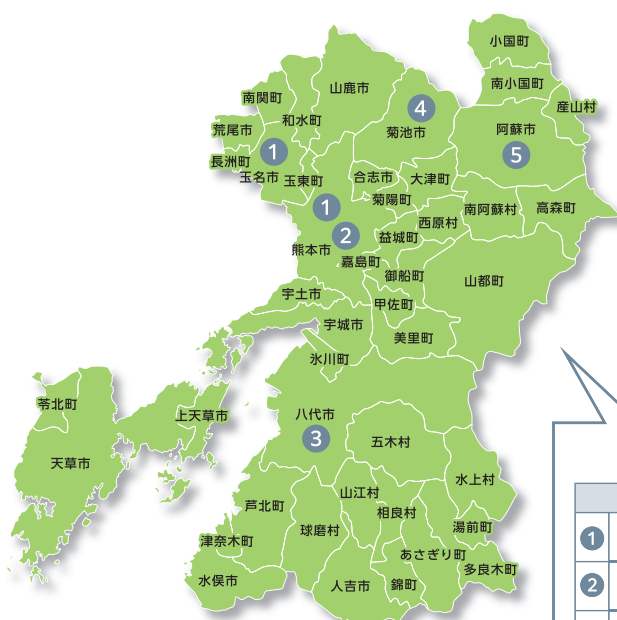
地域枠医師としての経験を通して、予防医療に関わることが自分に合っていると感じました。今後も、地域の中で予防に力を入れた医療に携わっていききたいというのが希望であり夢です。

濱口先生の9年間の勤務先

勤務期間		勤務先
①	2016.4.1～2018.3.31	2年間 国立病院機構熊本医療センター(熊本市) 公立玉名中央病院(玉名市) 臨床研修
②	2018.4.1～2019.3.31	1年間 熊本大学病院 (熊本市)
③	2019.4.1～2021.3.31	2年間 熊本総合病院 (八代市)
④	2021.4.1～2024.3.31 (1年間は育児休暇取得)	2年間 菊池郡市医師会立病院 (菊池市)
⑤	2024.4.1～2026.3.31	2年間 阿蘇医療センター (阿蘇市)



※公立玉名中央病院は玉名地域保健医療センターと合併し、現在はくまもと県北病院と名称変更しています。





聞き手
熊本大学病院 特任助教/
地域医療支援センター 専任医師/
熊本県地域医療支援機構 専任医師/
女性医師・子育て医師支援専任
堤 龍子先生



木村 聡子先生



堤 龍子先生

木村 聡子先生のプロフィール
平成19年自治医科大学卒業後、熊本赤十字病院、球
磨郡公立多良木病院、天草市立新和病院などを経て、
唐郡公立多良木病院、天草市立新和病院に就
任。その後、京都府立医科大学法医学教室 専任助教
を経て、令和6年4月から熊本県健康福祉部健康づく
り推進課勤務。現在は人吉保健所長を務めながら八代
児童相談所の医師を兼務。資格・死体解剖資格。熊本
市で夫と猫の“まめちゃん”と暮らす。趣味は茶道。



女性医師の多様な
キャリアパスに
ついて考える

堤先生：大学卒業後、地域医療に従事されましたが、どのような日々でしたか。
木村先生：患者さんの生活や嗜好に重点を置き、問診や助言指導を行うことは楽しかったですね。ただ、医療の現場で、同じように標準治療を受けていても助かる人とそうでない人がいて、その違いは「生命力」や「寿命」といった言葉で片づけられる印象が強

く、どこか納得しきれない思いがありました。なぜ同じ治療をしても結果が分かれるのか。その答えを探すには、亡くなった方の背景や身体の変化を見る必要があるのではと感じたんです。そうした中で、死の背景を多角的に検証できる法医学に関心を持つようになりました。
堤先生：亡くなった方の検証から得られる情報が、生きている人の命や暮らしに還元される可能性があると感じられたのですね。そこから大学院に行かれたのですね。
木村先生：はい。熊本県で初めて自治医科大学の義務年限中に熊本大学の基礎系の社会人大学院生として勉強をスタートしました。義務年限中の勤務や、大学の勉強で多くの先輩医師や県職員の皆様に支えていただき、いつか、どという形になるかはわからないけれども、熊本県に自分の経験と知識を還元したいと考えていました。

法医学・公衆衛生・児童福祉と、幅広い分野で活動している木村聡子先生に、熊本県地域医療支援機構で女性医師・子育て医師の支援を担当している堤龍子先生がインタビュー。木村先生の探究の軌跡と、地域医療に貢献する思いに迫ります。

に積極的に協力しており、非常に貴重な経験を積むことができました。
堤先生：今の児童相談所での取り組みとリンクしてますね。
木村先生：児童虐待（身体的虐待）の所見は、保育士さんや学校の先生などが傷に気づいて写真を撮り、児童相談所に送られることもありま。その流れを知って、「最初に写真を見るときに医者が関わった方が早いんじゃないかな」って思ったんです。児童相談所に医師として関わるためには「公衆衛生医師」という選択肢があると考えました。
堤先生：保健所や児童相談所では具体的にどのような活動をされていますか。
木村先生：2025年7月半ばかり保健所長としても勤務しながら、児童相談所の医師を兼務しています。保健所長として地域課題を分析し対応体制を模索することに変ながらも面白さを感じています。地域医療で学んだことも、大いに役立っていると感じています。児童相談所とのかわりとしては、毎週木曜日の午前中に八代児童相談所の援助方針会議に出席しています。また身体的虐待が疑われる事例に関してチャットで傷の写真等を送ってもらい助言をしています。保護者による医療ネグレクトが疑われるケースでは、保護



茶道が趣味という木村先生

堤先生：その後、東京都監察医務院で常勤監察医になられました。
木村先生：より多くのご遺体に接することで理解が深まると考え、日本で最も多くの事例を扱う東京都監察医務院で学びたいと思いました。
堤先生：医務院ではどのような経験をされたのでしょうか。
木村先生：医務院で扱う事例は興味深いものばかりでした。たとえば大動脈ステントの手術後、数年経ってからステントが大動脈を損傷し、致命的な出血を起こすケースなど、医療現場へのフィードバックが必要だと感じる事例にも多く出会いました。また未診断の結核による死亡例も多く、日本の結核行政への関心の入り口になりました。
堤先生：その後赴任された京都府立医科大学ではどのようなことをなさっていたんですか。
木村先生：私が所属していた教室では、児童虐待に関する相談や鑑定

者向けの説明資料作成のお手伝いをすることもあります。
堤先生：法医解剖嘱託医としてはどのような取り組みをなさっていますか。
木村先生：熊本大学で法医解剖に関わっています。熊本県は全国的に見て解剖率がかなり低い県です。だからこそ、もっと解剖の機会を増やして、正確な死因の解明につなげていきたいと考えています。
堤先生：あらたに取り組んでいきたいことはありますか。
木村先生：現在、国が進めようとしている「チャイルド・デス・レビュー」は、子どもの死亡事例を多職種の専門家が一緒に検証し、死因を明らかにして、再発防止につなげる取り組みです。その取り組みに関わっていければと思っています。
堤先生：後輩に伝えたいことは。
木村先生：「人生に無駄なことは一つもない」ということ。自治医科大学を卒業した医師は義務



堤 龍子先生のコメント
地域勤務の際、私は目の前の患者さんの対応に精一杯でしたが、木村先生は常にマクロな視点で物事を捉えていて、とても刺激を受けました。現在は法医学の知見を生かしながら地域医療を支えておられる姿に、改めてすごさを感じています。

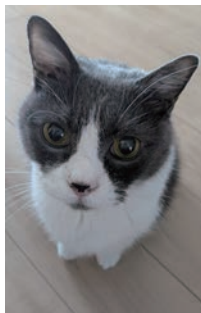
熊本県女性医師キャリア支援センター
キャリア形成や就労継続、復職などで悩みや課題を抱える熊本県内の女性医師や子育て医師に役立つ情報をホームページ等で情報発信しています。



熊本県では公衆衛生医師を募集しています。

詳しくは
HPをチェック!





愛猫まめちゃん

年限を果たすという信念のもと働く中で、「遠回りをしているな」と感じることもあるかもしれませんが、でもそういう経験の中で得られるものは必ず自分の力になります。
堤先生：貴重なお話をありがとうございました。



「公衆衛生医師はやりがいがあります。興味を持った方は、ぜひ飛び込んでほしい」と語る木村先生



熊本大学2年
中田 敦之さん(熊本市出身)

座学で得た知識を実際に確かめることができる「解剖学」は興味深く、学びが深まる実感があります。予習と復習に苦労していますが、復習はできるだけ授業中に覚えるように努力し、休み時間は友達とゲームで息抜きしています。将来は確かな医療技術とともに、患者さんに寄り添うコミュニケーションを大切にしたいです。



熊本大学2年
山田 華奈さん(熊本市出身)

空手部と「救急サークルKUMA」に所属しています。「KUMA」ではワークショップ運営やAED普及活動に参加し、大学内外で友人の輪が広がっています。将来は病気だけでなく、患者さんを全人的に診られる医師を目指しています。後輩の皆さん、医学は奥深いです！大学の勉強は難しいですが、楽しいこともいっぱいあるので頑張ってください！

医学部Freshmanに聞く 「知のライフスタイル」

遊びも学びも全力投球！医学部学生の
日々の暮らしや後輩へのメッセージなどをご紹介します。



自治医科大学1年
古川 裕貴さん(熊本市出身)

好きな授業は「シミュレーション学入門」です。病院現場で使う手技の基礎を学ぶことができます。最近は夜の散歩にハマっています。授業で疲れた頭がスッキリし、気分転換になります。後輩の皆さん！医学部入学へ道のりは大変ですが、あのとき頑張った自分がいたからこそ楽しい大学生活を送れています。夢に向かって一歩ずつ歩んでください。



熊本大学2年
松村 洸希さん(宇城市出身)

授業は覚えることが多く大変ですが、知らなかったことを学ぶのが楽しく、どの授業も前向きに取り組んでいます。息抜きとして部活動でテニスをしています。体を動かすことで頭がスッキリし、勉強への集中力も戻ります。将来は地域の人々に寄り添い、何でも相談してもらえるような医師を目指しています。

地域の診察室 今回は「痛いぶつぶつ」

先生方、まずはどのようにアプローチしますか？

(症例)70歳代、女性。高血圧症などで定期的に診療所に通院している。受診予定日の前日に左前胸部の皮膚の感覚が過敏になってきている感じがした。受診当日の朝に、胸を見てみると、赤い皮疹が左前胸部にできていることに気が付いた。

皮疹の診療のポイント

皮疹の診断は、まさにその形態(見た目)でなされます。原発疹と、それに伴う二次変化を見極めること、経過(急性、慢性)、病変の分布、そして、随伴する症状から鑑別診断を絞っていきます。随伴する症状は、皮疹の疼痛や掻痒以外にも、発熱、呼吸器症状などがあるかどうかも確認が必要です。

診断結果

患者さんは、発熱などの他の症状はありませんでした。皮疹は紅色調の紅斑を背景に、紅斑上に小水疱が一部集簇(集まっている)していました。そのような病変が左胸部に数箇所あり、正中を超えた右側には皮疹は認められませんでした。皮疹だけでなく、その周囲の皮膚においても、触れただけで痛みがありました。

急性の経過と、特徴的な皮疹と症状から带状疱疹の診断となり、抗ウイルス薬、鎮痛薬、外用薬の処方を行いました。

診断のポイント

水疱は感染症、自己免疫疾患、外的要因(熱傷など)に伴って生じることがあります。今回の事例のように、集簇した水疱はウイルス感染症に特徴的であることや、急性の発症、疼痛を伴

う典型的な皮疹などから臨床的に带状疱疹の診断となることが一般的です。

その後の経過

皮疹は3週間ほどでよくなりましたが、4週間経過しても左胸の痛みが持続していることから再度外来で相談されました。たしかに皮疹は軽快していましたが、触れただけでピリッとした神経痛が誘発されました。症状や所見から、带状疱疹後神経痛の診断となることを伝え、神経障害に伴う疼痛に効果のある薬を処方することとなりました。約1年後には日常生活で気にならないほどに症状が落ち着き、投薬を中止しました。

回復までの流れと注意点

皮疹はおよそ2〜4週間程度で治まります。水疱が破れて出てくる浸出液は、水痘带状疱疹ウイルスに感染したことがない乳幼児では、水痘を発症することがあります。空気感染するわけではありませんが、タオルを別にすることや、皮疹が落ち着くまではできるだけ接触しないように指導しています。

带状疱疹の合併症で頻度が高いのが、この事例でもありました带状疱疹後神経痛です。加齢とともに合併しやすいのが特徴です。また、带状疱疹の症状が重いほど合併する可能性が高くなります。

Question

带状疱疹に関する記述のうち、正しいものを1つ選べ。

- A 抗ウイルス薬による带状疱疹の治療は、带状疱疹後神経痛を予防する効果がある
- B 带状疱疹を発症したことがある人は、带状疱疹ワクチン接種は不要である
- C 水痘ワクチン(生ワクチン)を接種したことがある人は、带状疱疹ワクチン(不活化ワクチン)接種は不要である
- D 65歳を迎える方は、带状疱疹ワクチンの定期接種対象者である



熊本大学病院
地域医療支援センター 特任講師
総合診療専門医・指導医
高柳 宏史 先生

気になる答えはP22へ



地域に学び、未来を描く 水俣芦北での夏季地域医療特別実習

「夏季地域医療特別実習」が、令和7年8月19日から20日にかけて水俣芦北地域で行われ、地域枠の学生や自治医科大学の学生らが参加しました。医療・福祉施設の視察や地域住民との交流を通じて、学生たちは地域医療の現場に触れ、課題と向き合いながら、将来の医師像を思い描く貴重な2日間となりました。



地域医療の“いま”に触れ、地域の現状や課題等を実感

夏季地域医療特別実習は、熊本県から修学資金を貸与されている学生（貸与学生）や熊本県出身の自治医科大学の学生などを対象にしています。この実習の目的は、実際に地域を訪問して、へき地の医療施設の見学やフィールドワークにより、地域の環境や人々の暮らしぶり等を視察することで、学生が地域医療の課題等に関心を持ち、将来地域医療に取り組む意欲を醸成するために実施しているものです。

令和7年度は水俣芦北地域（水俣市、芦北町、津奈木町）を実習先に設定し、貸与学生29名、自治医科大学の学生12名、計41名が参加して実施しました。

1日目は、午前中に水俣市立総合医療センターにて、熊本県水俣保健所の林田由美所長から水俣地域の医療の現状や課題等について講話を拝聴した後、水俣市立総合医療センターの阿部道雄病院長に同センターの診療活動等の状況を説明していただきました。

午後は、8～9人ずつの5つのグループに分かれ、水俣芦北地域をフィールドワークして、各地域の医療施設や高齢者施設等を訪問し、地域医療の現場を視察することで、地域の現状や課題等を実感しました。



8月19日
へき地の診療所視察



8月19日
地域の医療機関視察



8月19日
特別養護老人ホーム訪問



8月19日
懇談会・意見交換会
湯の児海とタヤけ

対話の中に、医療の未来が見えてくる

夜には宿舍の「湯の児 海とタヤけ」に、実習でお世話になった自治体や施設等の関係者の皆様をお招きして、懇談会・意見交換会を開催しました。学生は、自治体関係者や地域で働いている先輩医師の方たちと積極的に会話を交わし、交流を深めました。

2日目は、午前中に水俣市立総合医療センターにて実習の成果等の全体発表会を行いました。5つのグループそれぞれが、実習で得た感想や考察、課題等を発表し、他のグループからの質問や意見を受けるとともに、同席いただいた自治体等の関係者も交えて活発に議論を行い、充実した全体発表会となりました。

午後は、水俣病資料館及び熊本県環境センターを訪問し、水俣病資料館にて語り部からの講話を拝聴して水俣病の歴史と教訓を学び、熊本県環境センターにて水俣地域の環境再生の活動について説明を受けました。

両日とも暑い中、地域の医療施設や福祉施設、自治体関係者など、多くの皆様にご協力いただき、実習を無事に終えることができました。学生たちも地域の皆様方の想いや期待に応えるべく真剣に取り組み、とても有意義な実習となりました。



8月20日
全体発表会水俣市立総合医療センター

P20の答え D

带状疱疹後神経痛の予防効果については、带状疱疹ワクチン接種が研究で示されています。一方、抗ウイルス薬は、皮膚症状を軽減する効果は示されていますが、带状疱疹神経痛の発症率低下への効果は明らかになっていません。また、带状疱疹を一度発症しても、再発する可能性があるため、基本的に带状疱疹発症から一年後以降を目安にワクチン接種が推奨されます。水痘ワクチンの接種歴があっても接種が求められます。

2025年4月から、65歳を迎える方は带状疱疹ワクチンの定期接種対象者となりました。2029年度までは、経過措置として70歳以上の方も5歳刻み（70歳、75歳、80歳・・・）で対象になります。対象年齢の方やワクチンについて気になった方は、主治医もしくは最寄りの医療機関にご相談ください。

高校生に届け！ 地域医療 “現場のリアル”と サポート体制



熊本学園大学附属高校で行われた出前講座

2025年5月15日（木）、熊本学園大学附属高等学校で、熊本県へき地医療支援機構の専任担当官・小山耕太先生による出前講座が行われました。講座では、熊本県の医療の現状や課題、地域で働く医師への支援体制について説明がありました。小山先生は「高校生の皆さんに、自身の進路と医師としてのキャリアを具体的にイメージしてもらいたい」と語り、地域医療の重要性を伝えました。

医師の地域偏在が課題 地域に届く医療を目指して

熊本県では、医師の地域偏在が大きな課題となっています。県内の医師の約6割が熊本市に集中しており、残りの4割でその他の地域の医療を支えているのが現状です。この状況を改善するため、熊本県はさまざまな取り組みを進めています。たとえば、自治医科大学と連携し地域医療に従事する医師の育成を行ったり、熊本大学医学部の地域枠入学者に対して修学資金を貸与する制度を設けたりしています。しかし、こうした対策を講じても、地域で働く医師の数は十分とは言えず、医師の確保は依然として大きな課題となっています。

全人的な医療を地域で実践する医師を、バックアップ

小山先生はこれまで、自治医科大学出身の若手医師を中心に、教育やキャリア支援に取り組んできました。「地域医療を支えるには、教育の充実が欠かせない」と語る小山先生は、現場で高く評価されているこの取り組みを高校生にも広げ、「将来の医師像を考えるきっかけにしてほしい」と話します。地域の医療機関では、キャリア形成に不安を感じる医師も少なくありません。こうした課題を踏まえ、小山先生は「だからこそ、地域で働く医師へのキャリア支援や教育体制が整っていることを、高校生のうちから知っておいてほしい」と強調します。地域医療では専門分野にとらわれず、幅広いニーズに応える柔軟な視点が求められるとし、「地域医療はやりがいのある仕事。全人的な医療を実践する医師を、私たちはしっかり支えます。安心して飛び込んでください」と力強く呼びかけました。生徒たちは、地域医療の現場について学ぶ貴重な機会として、真剣な表情で耳を傾けていました。



熊本県健康福祉部健康局医療政策課企画・医師確保班の皆さん

医師を目指す中学生・高校生向け 無料出前講座を受け付けています！

小山先生が熊本県内の中学校・高校に出向き、医師を目指す中学生・高校生向けに無料出前講座を実施します。

熊本県の地域医療の現状や、総合診療医のやりがいについて“リアルな声”を聞くことができるチャンスです！ふるってご応募ください。



熊本県健康福祉部健康局医療政策課
熊本県へき地医療支援機構・専任担当官

小山 耕太（おやま こうた）先生
2004年 佐賀大学医学部（旧佐賀医科大学）卒

<資格>
医学博士
日本専門医機構 総合診療専門医・指導医
日本内科学会 認定医・総合内科専門医
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医・指導医
日本病院総合診療医学会 認定医・特任指導医

申し込み・相談は
こちらまで

熊本県健康福祉部健康局医療政策課 熊本県へき地医療支援機構 専任担当官 小山 耕太
〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 新館3階
Tel:096-333-2204 Fax:096-385-1754 E-mail: kohtaoyama@yahoo.co.jp